

まゆとも GTS 「ほんととほんと」

1 ほんとのほんを探してくださるあなた方に感謝しています。

ほんとのほんを探し出すのは、ほんとに難しいのです。この世の中には、嘘がまかり通っているからです。

とりわけ、大人世界に嘘が溢れているからです。だから当然、そのほんとでない嘘が、子どもの世界にも降り注いでいて、子どもとしても、そのほんとと、もう一つのほんとの区別が付けられない、と、言う場面に出会ってしまうことが、よくあるでしょう。このときの判断はどうしましょう。

この時、その判断は、その人の持つ判断基準としようもので、計っていくのですよね。どちらの道を選ぶのか？と。

2 演劇という表現手段は、その事を考えるのに、適した、とてもよい「芸能」なのです。きっとあなた方は、この「劇づくり」に参加されて、たくさんのことを考えたでしょう。そして、この作品を選び、観客である私たちに「ほんとうって、何？」と問いかけてくださいました。

3 「花のき村の盗人たち」という作品を見つけられたのも、嬉しいことです。

作者の新美南吉さんは今から 74 年前に 29 歳でなくなっています。生きて居られた時代は、大正時代と昭和初期。太平洋戦争の終わる前に亡くなりましたから、70 年よりもっと前です。でも心に悩むことが次から次へと起こりつづけていましたから、何が本当で、何が本当でないかもなかなか解りづらかった時代でした。若い作家の新美南吉さんも困り抜いて居られたことでしょう。まっとうに、まっすぐ、正しく、誠実に生き抜くことがたいへん難しかった時代でした。その中であって、この作品を書かれていたのです。今読んでも少しも古くありません。あなた方も、それを表現なさいました。表現なされていたからには、あなた方も、毎日、正直に、まっとうに、正しく、前に向かって歩いて行かれることでしょう。良い作品を手になさいましたね。登場された「役人」さんの演技も、まっとうな「お役人さん」で、嬉しく思いました。舞台の装置も、簡略にして清楚でした。牛も静かで、従順な俳優さんでしたね。

追伸 あなた方の上演に続いて、児童劇団やまびこ座の、加古里子原案、やまびこ座演出の「どろぼう学校」がありました。形も時代も発想も、まるっきり違ったものですが、テーマは同じもの。この両者、共に「好感度」で満足しました。

荒木昭夫